

平成 30 年度事業報告書

社会福祉法人長崎市社会福祉事業団

目 次

総括	1
I 事務局	2
II 身体障害者福祉センター-A型	7
III 地域活動支援センター-II型事業	10
IV 障害児等療育支援事業	11
V 相談支援事業	14
VI 自立訓練(機能訓練)事業	18
VII 障害者就労支援相談所運営事業	20
VIII 児童発達支援センター「さくらんぼ園」(単独通園)	21
児童発達支援センター「さくらんぼ園」(親子通園)	27
IX 診療所	30
X 母子生活支援施設「白菊寮」	35
※ 利用状況の推移	39

総 括

当事業団は、長崎市障害福祉センター及び母子生活支援施設「白菊寮」の指定管理者として、施設の安全管理の徹底、福祉サービスの質の向上を図るとともに、健全な経営に努めました。

事務局では、総合的な企画・調整や経営に関する総括的な管理業務の中で、理事会・評議員会の開催や予算・決算業務を行うほか、事業団職員の資質向上を図るため、研修や職場ミーティング等を充実し人材育成に努めました。

また、各障害者団体や利用者からのご意見やご要望についても、適切に対応し改善に努めました。

成人部門では、障害者が自立した社会生活を営むことができるよう、機能訓練、貸館等のサービスを提供するとともに、障害者相互の親睦を深め、生きがいをより強く感じていただけるよう、趣味・教養・健康づくり等、各種のレクリエーション活動を支援しました。

小児部門では、診療と療育部門において、発達に障害がある児童等を早期に発見し、それぞれの状況等に対応した適切な療育を実施するため、相談・診察・評価で得られた総合的な結果に基づく治療、個別訓練や小集団による療育指導を行うほか、保護者への支援に努めました。

また、児童発達支援センター「さくらんぼ園」が持つ専門機能を活かし、心身の発達に遅れのある未就学児を対象に、遊びを中心に据えた療育と基本的な生活習慣の確立・コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、親子通園の「きりん組」では、児童の発達状況と障害の程度を考慮してグループ分けし、それぞれの状況と障害の程度に応じた発達支援に努めました。

障害児等の療育支援では、外来による療育指導のほか、専門療法士による家庭や幼稚園等への訪問指導を行うとともに、学校や幼稚園・保育園等の職員が障害児に適切な対応ができるよう、療育技術の指導を行いました。

成人・小児の両部門に関わる相談支援では、障害児・者やその家族等の相談に対し、課題を把握しながら、ケアマネジメントに基づいた福祉保健医療サービスの調整や関係機関との連絡調整をする等支援しました。

また、障害者の就労が実現できるよう、相談支援や就労準備のための支援に努めました。

母子生活支援施設「白菊寮」では、入所者が安心して毎日の寮生活を送ることができるよう、一人一人に寄り添った支援に努めるとともに、児童の健全育成、早期に自立できるための支援・指導を行いました。

また、退所者の悩み等の相談に応じるなど、退所者支援にも努めました。

今後も、当事業団は地域福祉の増進を図るため、利用者のニーズに応じた利用者本位のサービスを提供していくとともに、引き続き安定した経営組織の構築を図り、透明性の高い施設運営に努めてまいります。

I 事務局

1 施設・事業の形態

施設・事業名	事業形態
事務局	長崎市受託事業
身体障害者福祉センターA型	長崎市受託事業
地域活動支援センターII型事業	長崎市受託事業
障害児等療育支援事業	長崎市受託事業
自立訓練（機能訓練）事業	長崎市受託事業、障害福祉サービス事業
相談支援事業	長崎市受託事業、相談支援事業
障害者就労支援相談所運営事業	長崎市受託事業
児童発達支援センター「さくらんぼ園」	長崎市受託事業、通所支援事業
診療所	長崎市受託事業、保険診療
母子生活支援施設「白菊寮」	長崎市受託事業

2 組織及び職員配置（表内の人数は定数で、実際の配置人数ではない）

平成31年3月末現在

課名	業務内容	職種等の状況	職員数（配置数）			
			正規	嘱託	再任用	非常勤
総務課	<ul style="list-style-type: none"> 法人業務に関すること センター・白菊寮の総務に関すること 建物の維持管理に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> 理事長 センター長（医師） 事務局長 事務職員 医療事務職員 	1	5		1
白菊寮	<ul style="list-style-type: none"> 母子生活支援施設に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> 寮長 母子支援員 少年指導員 調理員等 		2		1
支援課	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援業務に関すること 身体障害者福祉センター業務の主に講座・貸館に関すること 地域活動支援センター事業に関すること 自立訓練（機能訓練）事業に関すること 貸館業務に関すること 手話通訳に関すること 送迎に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーカー 相談員 障害者就労支援相談員 聴覚言語相談員 手話通訳士 視覚障害者リハビリテーション指導員 障害者支援員 事務職員 	2	4		1
さくらんぼ園	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援センターに関すること 	<ul style="list-style-type: none"> 園長 保育士（含児童指導員） 栄養士 調理員 運転士 	4	12		※2
リハ療育課	<ul style="list-style-type: none"> リハビリに関すること 発達障害者支援に関すること 自立訓練（機能訓練）事業に関すること センター業務の主に訓練に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 臨床心理士 障害者スポーツ指導員 	4	※1		（※1）
診療所	<ul style="list-style-type: none"> 診療所に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> 副センター長（医師） 診療所長（医師） 看護師 	1	※4		
計		(80名)	27	48		5

注1) 派遣及び非常勤嘱託医は除く。(小児科：週2日2名・週1日1名・月1日1名／精神科：月1日1名)

注2) さくらんぼ園調理員2名は、隔日での交代勤務。

注3) リハ療育課の嘱託の言語聴覚士1名は、平成30年度中確保できず欠員。また、非常勤嘱託の臨床心理士は産休等による影響を軽減するため、一時的に配置を承認してもらっているもので定員には含まない。

注4) 看護師は、長崎市の指導監査の指摘により、平成30年11月から1名増員。(3名→4名)

3 理事会の開催

	開催日・開催場所	議 案	結果
第1回	平成30年6月8日 於：5階会議室	1 平成29年度事業報告について 2 平成29年度決算について 3 評議員選任・解任委員の選任について	※説明のみ
第2回	平成30年6月14日 於：5階会議室	1 平成29年度事業報告について 2 平成29年度決算について 3 評議員選任・解任委員の選任について	可決 可決 可決
第3回	平成30年12月7日 於：5階会議室	1 自立訓練（機能訓練）事業運営規程の一部を改正する規程について 2 給与規程の一部を改正する規程について ◆報告事項：監査指摘事項の対応状況（自立訓練）	可決 可決
第4回	平成31年3月18日 於：5階会議室	1 就業規則の一部を改正する規程 2 嘱託員就業規則の一部を改正する規程 3 再雇用職員就業規則の制定 4 給与規程の一部を改正する規程 5 監事監査規程の制定 6 平成30年度補正予算（第1号）について 7 平成31年度事業計画について 8 平成31年度予算について ◆報告事項：①理事長・業務執行理事の業務執行状況 ②監査指摘事項の対応状況 ・障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく実地指導 ・法人指導監査	可決 可決 可決 可決 承認 〃 〃

4 評議員会の開催

	開催日・開催場所	議 案	結果
定時	平成30年6月25日 於：5階会議室	1 平成29年度事業報告について 2 平成29年度決算について	承認 承認

5 監査の実施

期 日	監査の種類	実施場所	監 査 項 目
平成30年5月18日 平成30年5月21日	監事監査	1階相談室A	平成29年度事業実施に関する事項 平成29年度会計・決算に関する事項

6 評議員選任・解任委員会の開催

平成30年度開催なし

7 広 報

広報紙「もりまち通信」を年4回（各500部）発行し、関係機関等へ配布することで、当センターの広報に努めた。

《主な配布先》

長崎市（障害福祉課、地域保健課、中央・北保健センター、地域センター等）、医療機関
長崎市中心身障害者団体連合会、福祉施設等

8 その他

(1) ハートセンター懇談会の開催

期 日	参加者	要 望 事 項
平成 31 年 1 月 16 日	21 名 (各障害者団体)	1 軽スポーツ室の環境について 2 パンフレットなどの点字化について 3 視覚障害者への接し方について 4 電光掲示板の設置について 5 視聴覚室のカラオケ曲の充実について 6 調理器具の衛生面の徹底について

(2) 消防避難訓練

期 日	実 施 対 象	訓 練 内 容
平成 30 年 9 月 26 日	ハートセンター全館	・初期消火及び避難誘導 ・本部・救護所の設置及び避難時間計測 ・北消防署による講評
平成 31 年 2 月 27 日	ハートセンター全館	・初期消火及び避難誘導 ・本部・救護所の設置及び避難時間計測

(3) 主な講師派遣の実績

研 修 内 容 等	主 催	時 期	派 遣 者
講演：ちょっと気になる子どもたち	小百合保育所	4 月	リハ療育課長
意思疎通支援・相談支援担当者会議	長崎県聴覚障害者情報センター	5 月	手話通訳士 1 名
長崎市特別支援教育支援員研修会	長崎市教育研究所	5 月	作業療法士 1 名 理学療法士 1 名
長崎市夏季特別支援教育支援員研修会	長崎市教育研究所	7 月	医師 1・臨床心理師 1 理学療法士 1・作業療法士 1
講演：児童発達支援センター	活水女子大学健康生活学部子ども学科	7 月	園長
講演：発達障害	深堀小学校	8 月	診療所長
講演：医療・療育と教育の連携	長崎大学教育学部附属特別支援学校	8 月	診療所長
長崎県相談支援従事者研修会	長崎県障害者社会参加推進センター	9・10 月	相談支援係長
同行援護従事者養成研修	介護職員養成カレッジ	9・10 月	視覚障害者リハビリテーション指導員
長崎市学校運営研修会	長崎市教育委員会	10 月	診療所長
お遊び教室関係者・子育て支援課職員研修会	長崎市	10 月	作業療法士 1 名
福祉体験学習	淵中学校	10 月	手話通訳士 1 名
福祉体験学習	土井首中学校	11 月	手話通訳士 1 名
長崎 ADHD 多職種連帯事例検討会	ヤンセンファーマ(株)	11 月	副センター長
福祉体験学習	土井首中学校	11 月	手話通訳士 1 名
福祉サービス勉強会	長崎市子育て支援センター	11 月	支援課長

(4) 主な会議等への参加実績

会 議 内 容	主 催	時 期	参加者
長崎市障害者自立支援協議会こども部会合同会議	長崎市障害者自立支援協議会	5月	支援課長・園長
児童発達支援センター連絡会	長崎県立こども医療福祉センター	6月	支援課長・園長
全国社会福祉事業団九州ブロック会議・研修会	全国社会福祉事業団協議会(九州ブロック)	7月	事務局長
長崎県発達障害者支援センター連絡協議会	長崎県立こども医療福祉センター	8月	支援課長
意思疎通支援・相談支援担当者会議	長崎県聴覚障害者情報センター	6・8月	手話通訳士1名 聴覚言語相談員1名
長崎県相談支援従事者打合せ会議	長崎市障害者社会参加推進センター	8月	相談支援係長
県内こどもセンター・関係機関連絡協議会	長崎県立こども医療福祉センター	9月	診療所長・支援課長 リハ療育課長
選任手話通訳者会議	九州地区専任手話通訳者連絡協議会	10月	手話通訳士1名
第52回全国社会福祉事業団大会	全国社会福祉事業団協議会	10月	事務局長
意思疎通支援・相談支援担当者会議	長崎県聴覚障害者情報センター	11月	聴覚言語相談員1名
長崎市親子支援ネットワーク地域協議会	長崎市	11月	園長・相談員1名
医療ソーシャルワーカー連携事例検討会	長崎みなとメディカルセンター	12月	支援課長・相談員1名
長崎地域障害者雇用連絡会議	長崎公共職業安定所	2月	就労相談員1名
長崎市障害者自立支援協議会就労支援部会	長崎市障害者自立支援協議会	2月	就労相談員1名
学校評議委員会	長崎県立長崎特別支援学校	2月	園長
長崎県教育支援委員会	長崎県教育庁	3月	園長
地域活動支援センター情報交換会	長崎県障がい者福祉協会	3月	相談員

(5) 主な外部研修への参加実績

研 修 内 容	開 催 場 所	時 期	参加者
第 60 回日本小児神経学会学術集会	千葉市	5 月	副センター長・診療所長 医師 2 名
長崎県相談支援専門員スキルアップ研修会	大村市	6 月	相談支援係長
意思疎通支援・相談支援担当者学習会	大村市	6 月	手話通訳士 1 名
第 14 回九州ろうあ者相談員研修会	春日市	6 月	聴覚言語相談員 1 名
教育研修会	長崎市	7 月	相談員 2 名
第 40 回全国母子生活支援施設職員研修会	横浜市	7 月	少年指導員(白菊寮)1名
長崎県強度行動障害支援者養成研修	大村市	8 月	保育士 1 名
小児高次脳機能障害研修会	長崎市	8 月	相談員 1 名 理学療法士 1 名
母子保健指導者養成研修	大分市	8 月	栄養士 1 名
長崎県相談支援従事者初任者研修会	諫早市	9 月	聴覚言語相談員 1 名
社会的養護を担う児童福祉施設長研修会	大阪市	9 月	白菊寮長
長崎圏域研修会(障害児支援アセスメント)	長崎市	9 月	相談員 1 名
医療ケア児コーディネーター養成研修	諫早市	9・12 月	支援課長
言語発達障害訓練プログラム講習会	東京都	10 月	言語聴覚士 1 名
全国児童発達支援協議会第 26 回中四国・九州ブロック職員研修会	岡山市	11 月	保育士 1 名
第 36 回日本感覚統合学会研究大会	奈良市	11 月	作業療法士 1 名
長崎県サービス管理責任者等研修	諫早市	11 月	児童指導員 1 名
高次脳機能障害支援研修会	長崎市	12 月	相談員 1 名
長崎県新生児聴覚検査推進事業研修会	長崎市	1 月	相談員 1 名
長崎県高次脳機能障害リハビリテーション講習会	諫早市	2 月	相談員 1 名

II 身体障害者福祉センターA型

障害者に対し、機能訓練、教養の向上、社会との交流促進及びスポーツ・レクリエーションのための総合的なサービス提供を行った。

1 実施内容

(1) 平成30年度末センター登録者数 (単位：人)

視覚障害	205	聴覚障害	282
音声・言語	88	肢体不自由	1,520
内部障害	423	知的障害	715
精神障害	495	その他	280
		延べ人数	4,008
		(実人数)	3,445

(2) 貸館業務

プール・体育館・軽スポーツ室等の運動施設や、研修室・会議室・視聴覚室・社会適応訓練室等の文化教養施設及び調理訓練室・パソコン室等の専用施設を、障害者団体やボランティアグループを中心に無料で広く開放。また、障害者と健常者との交流の機会を増やしていく目的から、一部の施設を一般の団体・個人へ有料で開放している。

休館日は、毎月第4日曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）。木・土曜日は夜間開放。利用者の高齢化・若年層の利用の停滞等により、利用者数は減少傾向にある。

《年度別貸館利用者数》 (単位：人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	89,395	90,529	90,279	90,102	87,233

(3) センターA型・機能訓練

センターA型では、本人の希望を尊重のうえ適切なサービスを選択し、指導員等の支援のもと自主的にリハビリテーションを行った。必要に応じて理学療法士、作業療法士が指導員及び利用者へアドバイス等を行っている。ふうせんバレーのほか、各種スポーツ・レクリエーションを実施した。

① 年度別利用者数 (単位：人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	11,353	12,883	12,852	12,641	12,004

②平成30年度 センターA型・機能訓練利用者数内訳 (単位：人)

内 容	視覚障害	聴覚障害	言語障害	肢体障害	内部障害	知的障害	精神障害	その他	合計
プ ー ル	81	181	191	2,482	287	43	83	13	3,361
スポーツ・レクリエーション	678	264	215	2,631	49	84	82	0	4,003
自主訓練	720	214	8	3,049	179	39	174	0	4,383
言語訓練	0	0	169	88	0	0	0	0	257
合 計	1,479	659	583	8,250	515	166	339	13	12,004

(4) 年間行事

日頃の成果発表の場として次の行事を行った。(単位：人)

行事名	実施日	参加人数
水泳記録会	5月24日	17
ポッチャ大会	7月4日	25
レクリエーション大会	10月12日	51
フライングディスク大会	11月12日	6
ふうせんバレー大会	1月16日	56
わのわリング大会	3月7日	19

(5) 講座

文化・芸術・スポーツなど多様な講座を実施することにより、障害者の社会参加とセンター利用の促進を図り、仲間づくりの場を提供した。

① 年度別利用者数

(単位：人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	402	262	293	357	338

②平成30年度講座利用者数内訳

(単位：人)

内容	回数	延参加者数
アンチエイジングメイキャップ講座	1	52
大人の塗り絵講座	1	5
ツインバスケットボール	1	16
インラインスケート	1	23
料理講座	2	20
笑いヨガ	2	12
健康体操教室	2	32
お菓子づくり講座	1	11
フラワーアレンジメント講座	1	5
着物着付け講座	2	9
お楽しみ講座(劇団ちゃんぼん)	1	31
お楽しみ講座(カラオケ大会)	1	56
盲ろう者へのサポートを学ぼう	1	23
悪質商法の被害にあわないために	1	13
災害時の対処法セミナー	1	30
合計	19	338

(6) 地域との交流事業

利用者の日頃の練習成果の発表の場として、また地域との交流を目的として「ハートセンター文化祭」を実施。11の団体のステージ発表と23の団体による作品展示があった。

なお、平成30年度は初の試みとして、「長崎キワニスクラブ」の共催で実施。キワニスドール・フラワーアレンジメント・輪投げ・ヨーヨー釣り・スーパーボールすくい・バルーンパフォーマンス等の催し物で会場を盛り上げてもらった。

ゲストは、バンド演奏の「アイリス」、バルーンパフォーマンスの「SHU-N」、ジャグリングの「大橋昂汰」。

名称等	期日	内容・目的	参加者数
ハートセンター文化祭	11月18日	センター登録団体のステージ発表、展示と活動紹介等	約1,220人

(7) 手話通訳設置事業

市役所に配置されている手話通訳者と連携を図りながら、センター内外での手話通訳はもとより、聴覚障害者の相談支援等に努めた。

医療関係、高齢者福祉関係（介護保険、施設入所等）に関する通訳依頼が増加傾向にあったが、やや落ち着いてきている。

《年度別手話通訳件数》

(単位：件)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
手話通訳件数	7,065	6,773	6,516	2,737	3,148

※平成29年度以降、手話通訳件数が大きく減少しているのは、平成28年度まで4人体制であった手話通訳担当職員のうち、2名が長崎市役所の所属となったことによるもの。

(8) サポーター養成研修会

当センターで実施する事業のサポーター養成のため、障害者への関わり方や具体的なサポート方法についての研修会を実施し、サポーターとして登録している。

30年度末でのサポーター登録者数は64名。

実施日：平成30年8月2日

研修内容：「盲・ろう者へのサポート方法を学ぼう」 講義・実技

参加者：23名

《年度別参加者数の推移》

(単位：人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
参加者数	21	13	19	23	23

Ⅲ 地域活動支援センターⅡ型事業

在宅の障害者に対し、創作的活動や社会との交流を通して、身体機能の維持向上と生きがいを高めてもらうようにプログラムを工夫し支援した。

なお、本事業は契約制で、一部の事業については、身体障害者福祉センターA型と合同で実施している。

1 契約者の推移

各年度末

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
契約者数	113	103	98	89	64

2 利用者数の推移

各年度末

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者延べ人数	4,837	5,477	5,750	5,086	4,768

3 事業内容

(1) 創作的活動

木目込みやクラフト等個々の趣向に応じた手工芸や、外部講師による陶芸指導を行った。手工芸室の利用者数は2,340人(前年度2,884人)、陶芸教室は275人(前年度261人)。

(2) 機能強化事業

① 機能訓練

体育室並びに機能回復訓練室において、障害者スポーツ指導員や理学療法士の指導のもと集団での体操を行ったほか、プール、機能回復訓練室などを利用した自主的訓練を行った。利用者は879人(前年度806人)。

② 社会適応訓練

外部講師によるパソコン講座(月・火/週)を訓練の一環として実施した。パソコン講座の参加者は363人(前年度440人)。

③ スポーツ・レクリエーション

風船バレー、わのわリング、ポッチャ、フライングディスク、バドミントン等のスポーツ・レクリエーションを障害者スポーツ指導員のもと実施した。利用者は911人(前年度695人)。

IV 障害児等療育支援事業

外来による療育指導、訪問による療育指導、施設職員等に対する療育技術指導を柱に地域支援を行った。

1 目的

他機関との重層的な連携のもと、在宅の重度障害児・者、知的及び身体の障害児・者が、地域での療育相談や指導が得られるようにすることを目的とする。

2 事業内容

(1) 外来による療育指導

基本的に保険診療外の事業として、臨床心理士を中心に個別的指導を行っている。

指導を受ける児童に対する療育方針は、診療所での診察及び発達検査を行った後、ケース会議を実施し決定している。決定した療育方針については、保護者に説明し意見を聞くようにしており、ケースによってはさらに保護者と面談し、子どもへの対応の仕方などを指導している。

また、平成 26 年度から、さくらんぼ園きりん組園児へ、集団活動へのスキル、遂行態度・傾聴態度を育てること、言語表現等の集団訓練および保護者ミニ講座やミニ懇談会を実施している。

毎週木曜日午前の早期療育外来の診察の際には、理学療法士が同席し、その後の療育指導が円滑に行えるようにした。また、午後の整形外来診察においても、理学療法士が同席し、補装具の作製などに関する助言をした。

このほか、おやこ広場、就学児相談会など、診療所訓練外の療育支援にも注力し、特に平成 30 年度は診療外での保護者支援を充実した。

①年度別職種毎の指導件数

(単位：件)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
理学療法士	88	103.5	127	72	489
作業療法士	82.8	62.5	29	28.5	598
言語聴覚士	57.7	48.5	43	33	510
臨床心理士	2,223.5	1,239.5	1,078	728.5	1,118
保育士	126	41	52	45	50
ｽｰｯ指導員	266	257	335	284	217
合計	2,844	1,752	1,664	1,191	2,982

【平成 30 年度件数の増加の要因】

育児休業からの復帰（作業療法士、臨床心理士）と平成 29 年度新入職員だった作業療法士、言語聴覚士（2 名）の通常業務が可能となったため。

※きりん組園児への指導件数（①と別掲。療育指導の合計件数は 3,869 件）

(単位：件)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
作業療法士	560.5	645	287	243	330
言語聴覚士	287.5	835	482	334	219
臨床心理士	0	445	188	108	338
合計	848	1,925	957	685	887

②おやこ広場

発達や育児に関する疑問や不安を抱えている 2 歳までの早期産児・出生時ハイリスク児の保護者を対象に、親子遊び・講話・交流会からなる自由参加型のグループを設け、情報交換や交流の場とした。担当として、理学療法士、保育士が中心に関わったが、テーマによっては、ソーシャルワーカー、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士が講師として参加した。

また、平成 27 年度より実施時間を午前中に変更したことにより参加者が増加傾向にあることから、スタッフを増員し、きめ細やかな対応に努めたことで、特に今年度は、支援が必要なお子さんをセンター受診・療育へ繋ぐことができた。

《年度別利用者数》 (単位：人)

年 度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
利用者数	13	49	72	78	67

《平成 30 年度実施状況》 (単位：人)

実施日	講 話	参加者数	実施日	講 話	参加者数
5 月 9 日	みんなで楽しく遊ぼう	11	9 月 5 日	おいしく食べて楽しく話そう	9
6 月 6 日	おやこで一緒に作ろう!	6	10 月 3 日	ことばを育むためには	10
7 月 4 日	ほめかた・おこりかた	8	11 月 7 日	お悩み相談会	7
8 月 1 日	おやこ広場なつまつり	9	12 月 5 日	クリスマス会	7

③就学児相談会

一学期が終了し通知表を受け取った夏休みの時期に、開催案内とアンケートを送付し、9 月に相談会を実施した。相談内容は、児の特性からくる集団での不適切な行動、学習理解等の苦手さ、情緒的な問題についての内容が多い。

しかし、小学校入学後も処方等で診察時に相談など行っている児が多くなっており、希望者が減少してきている。

- ◇開催日 平成 30 年 9 月 28 日 (金) 9:00~17:00
- ◇対 象 平成 30 年 3 月までに当センターで療育または定期診察等を受けて、新 1 年生になった児童の保護者
- ◇内 容 事前に対象児の保護者に対し、就学後の様子についてのアンケートを実施した。学童グループや診察・処方・個別療育等でのフォローがなされていない児童の保護者に対して、各セラピストが個別に対応した。

《年度別相談件数》 (単位：件)

	アンケート送付数	相談会案内送付数	相談件数
26 年度	234	113	14
27 年度	241	162	26
28 年度	238	132	19
29 年度	183	87	14
30 年度	242	99	11

(2) 訪問による療育指導

- ① 肢体不自由児に対しては、家庭や学校、保育園・幼稚園等における生活改善のための環境調整等について、理学療法士が家庭や園等を訪問のうえ助言指導した。
- ② 当センターで療育している幼児が通う保育園や幼稚園を、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等が訪問し、保育園や幼稚園での生活が円滑に行えるよう担任と意見交換をした。
- ③ 在宅で生活している外出が困難な重症心身障害児に対し現状確認を行い、補装具の調整等の環境設定、ポジショニング等について、医師や理学療法士、相談員が自宅を訪問し助言指導した。

《訪問療育指導数》

(単位：件)

訪問先	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
家庭	2	11	13	11	8
保育園・幼稚園	106	72	34	37	66
特別支援学校	5	6	5	4	1
小中学校（普通）	17	10	6	8	7
他機関	3	8	4	2	5
計	133	107	62	62	87

(3) 施設職員等に対する療育技術指導

当センターで療育中の児童が通園している学校、幼稚園・保育園等の職員に対し、当センターでの療育状況を見学してもらい、児童の状態、療育目的等を説明のうえ園等での指導方法等をアドバイスした。

《他施設職員等に対する療育技術指導数》

(単位：件)

対象施設	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
保育園、幼稚園	71	112	78	85	81
特別支援学校	40	57	55	45	36
小学校（普通）	147	168	146	169	175
中学校・高校	7	29	29	47	39
他機関	2	23	46	23	23
計	267	389	354	369	354

(4) 療育支援セミナーの開催

講演テーマ	ハートセンターの療育について
講師	リハ療育課（理学療法士・作業療法士）
日時	平成31年2月16日（土） 14：00～16：00
場所	もりまちハートセンター2階 研修室
対象	保育、教育、療育機関等の職員
参加者数	57名（32機関）

V 相談支援事業

障害児・者やその家族等の相談に応じながら、障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的とし、「1 実施内容」に示す5つの柱により事業展開している。

また、視覚聴覚障害者については、特にきめ細やか事業により支援の充実を図っている。

今後も長崎市から委託された相談支援事業所として、自立支援協議会の運営協力をしながら地域の相談支援体制整備に取り組む。

1 実施内容

(1) 福祉サービスの利用援助

長崎市近郊の福祉事務所やサービス提供事業所等と連携し、ホームヘルパー、デイサービス、ショートステイなどの在宅福祉サービスの情報提供や利用開始に当たっての調整などを行った。

また、相談対応についても生活状況や課題を把握しながら、具体的かつ総合的にサービス提供をするように心がけた。

(2) 社会資源を活用するための支援

福祉機器の利用援助、外出・移動や住宅改修の助言、生活情報に関する相談に対応した。

(3) 社会生活力を高めるための支援

在宅の障害者を対象に社会生活の幅を拓げるための機会提供をした。

(4) ピア・カウンセリング

当事者である障害者団体等の協力を得ながら、聴覚言語相談員を中心に実施した。

(5) 専門機関の紹介、関係機関との連絡調整

在宅障害児・者に対するサービス等利用計画作成や当事者及びサービス提供事業所等の担当者とともに担当者会議(個別ケア会議)を実施。また事業所、医療機関、学校、保育園等の関係機関からの問い合わせや相談に対して助言等を行った。

2 項目別相談件数

(1) 支援方法(延べ人数)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
電話相談	2,753	3,508	3,304	3,636	4,748
来所相談	2,459	2,523	2,005	1,716	1,921
関係機関	397	459	559	397	138
訪問	483	404	353	444	465
個別ケア会議	202	173	156	182	189
同行	199	102	65	89	83
電子メール	66	45	55	121	278
その他	38	129	160	171	243
計	6,597	7,343	6,657	6,756	8,065

※その他：文書・ファックス他

(2) 主な障害の状況 (実人数)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
身体障害	1,812	1,741	1,412	1,391	1,413
発達障害	534	475	234	150	130
知的障害	346	266	240	139	145
精神障害	80	116	74	54	108
重症心身障害	87	47	0	2	9
高次脳機能障害	54	36	2	0	1
その他(※)	1,027	1,303	1,830	1,996	2,193
計	3,940	3,984	3,792	3,732	3,999

※診断や障害が定かでない幼児期から児童期の対象児が多くなっている。

(3) 支援内容 (延べ件数、重複あり)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
福祉サービス利用等に関する支援	3,206	3,372	2,706	3,030	3,784
健康・医療に関する支援	1,319	1,732	1,947	1,348	1,049
社会参加・余暇活動に関する支援	1,099	1,137	1,901	1,609	956
発達障害に関する支援	1,067	830	503	1,311	1,562
障害や病状の理解に関する支援	341	253	70	48	50
保育・教育に関する支援	223	195	210	210	225
家族関係・人間関係に関する支援	156	165	208	229	243
生活技術に関する支援	153	150	367	408	224
不安の解消・情緒安定に関する支援	265	136	114	77	114
就労に関する支援	147	120	203	260	153
家計・経済に関する支援	93	35	68	70	47
虐待に関する支援	23	12	25	20	11
権利擁護に関する支援	12	7	4	1	10
その他	489	735	766	577	711
計	8,593	8,879	9,092	9,198	9,139

(4) 相談者の内訳 (重複あり)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
家族・親族	2,370	2,983	2,858	2,579	2,691
本人	2,292	2,666	2,258	2,080	2,504
サービス事業者	887	852	889	1,054	1,543
その他関係機関	682	463	358	476	779
医療機関	242	196	264	360	411
学校・保育所等	93	135	104	101	99
就労先事業所	8	5	0	2	1
民生委員	1	2	6	5	0
自治会・近隣者	1	2	22	10	7
その他	21	39	148	234	271
計	6,597	7,343	6,907	6,901	8,306

3 聴覚障害者等への支援

聴覚障害者の社会生活力を高めるための支援の一環として、次の事業を実施した。

(1) 手話通訳士等による生活支援

聴覚障害者の生活全般に亘り各種相談に応じるとともに、聴覚と視覚等の重複障害を持つ障害者に対し、視覚障害リハビリテーション指導員と共に関わり、社会生活能力の向上を図った。また、「視覚・聴覚重複障害者生活支援事業」を毎月1回実施した。

(2) 難聴者・中途失聴者向け手話講座

「難聴者・中途失聴者向け手話講座」を5月から7月までの間、集中的に週1回、計10回開講し35人が受講した。また8月以降も、月1回のペースで継続して実施。

講座には、手話の学習のみならず障害の受容を促すための意見交換や福祉制度等に関する情報提供も行った。その結果、講座の回を重ねるごとに受講生の表情に明るさが見られ、講座受講を契機に日常生活用具給付申請、各種行事やグループ活動への参加につなげることができた。

《難聴者・中途失聴者向け手話講座実施状況》

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
参加者数	415	365	347	339	437

(3) 聴覚障害者生活支援事業

高齢、疾病等の理由で自宅にひきこもりがちな聴覚障害者を対象に「聴覚障害者生活支援事業」を実施したが、参加者の定着と拡がりが見られた。また、これまでひきこもりがちな聴覚障害者が、この事業への参加を契機に介護保険サービスの利用を始め、社会参加が広がったケースもあった。

《聴覚障害者生活支援事業実施状況》

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
参加者数	224	246	256	217	219
ボランティア	114	118	115	109	117
計	338	364	371	326	336

(4) 視覚・聴覚重複障害者生活支援事業

視覚・聴覚の重複障害により、自宅にひきこもりがちとなった障害者を対象に「視覚・聴覚重複障害者生活支援事業」を実施した。

参加者は、仲間やボランティアスタッフとの交流を楽しみにして、毎回事業に参加する傾向にある。

《視覚・聴覚重複障害者生活支援事業実施状況》

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
参加者数	46	39	39	43	41
ボランティア	136	122	116	125	120
計	182	161	155	168	161

4 視覚障害者等への支援

視覚障害リハビリテーション指導員を配置し、視覚障害者（見えづらい方やその家族含む）への相談・支援に努めた。

また、機能訓練において、白杖歩行訓練等、視覚障害者のそれぞれのニーズに応じた訓練を行うことで、社会生活能力の向上を図った。

《年度別相談支援実績》

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
相談・点字訓練など	460	427	631	749	882
機能訓練（歩行訓練 ・日常生活動作訓練）	132	93	73	136	184
計	592	520	704	885	1,066

（参考）…上記相談業務において、「視覚障害者向け茶話会」を平成29年度から月1回の定期開催として実施。

この中で、調理実習、日常生活用具や便利グッズの紹介、機能訓練やセンターの事業内容の紹介等、随時情報提供を行った。（延べ87名参加）

5 管理体制

相談支援事業所管理者 馬渡 仁美

相談支援事業所相談支援専門員 廣岩 秀徳

【総論】

昨今、障害児者福祉に関わる事業所が増え、様々な支援についての情報収集や方法等についての助言を求められることが多くなってきており、サービス提供事業者を始めとする関係機関との連絡調整や相談が増加傾向にある。

また、2-（2）「主な障害の状況」の※に記載しているように、診断や障害が定かでない幼児期から児童期に関する相談は年々増加しており、診察や療育へのニーズを示している。このうち、配慮を要する児・者については、支援の一環として計画相談を実施している。

その他、難聴者・中途失聴者向け手話講座及び生活支援事業、特に視覚障害者等への支援が増加している。

今後も利用者に対して柔軟に対応できる支援体制の構築を目指していく。

VI 自立訓練（機能訓練）事業

身体障害者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、当該障害者の身体その他の状況及びその置かれた環境を踏まえて、それぞれに適した訓練等を行った。

1 契約状況

①契約者数

(単位:人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
新規	6	10	10	14	13
終了	12	16	10	16	15
年度末契約者数	27	21	21	19	17

②疾患別延べ契約者数

(単位:人・%)

疾患(障害)名	性別		計	構成比(%)
	男性	女性		
脳血管障害・頭部外傷後遺症	身体症状を主とするもの(片麻痺など)		5	16
〃	精神症状を主とするもの(高次脳機能障害など)		5	16
脳性麻痺			6	19
頸髄損傷・脊髄損傷(髄内腫瘍含む)			5	16
骨関節疾患			2	6
神経・筋変性疾患(筋ジストロフィー含む)			3	9
視覚障害			6	18
総計			32	100

③年齢別延べ契約者数

(単位:人・%)

年齢	性別		計	構成比(%)
	男性	女性		
19～29歳	4	2	6	19
30～39歳	3	0	3	9
40～49歳	2	2	4	12.5
50～59歳	4	6	10	31
60～64歳	3	3	5	16
65歳以上	2	1	4	12.5
総計	18	14	32	100

2 実施内容

(1) 機能訓練

身体機能、生活能力等の維持・向上を図るため、理学療法士、視覚障害リハビリテーション指導員による機能訓練等を行った。また、各専門職による個別の訓練に加え、集団体操やプール、スポーツレクリエーションなど幅の広いメニューを提供した。

《職種別訓練実施件数》

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
理学療法士	1,121	1,165	1,098	1,134	808
作業療法士	86	107	16	0	0
言語聴覚士	90	54	1	0	0
障害者スポーツ指導員	2	16	0	0	0
視覚リハ指導員	132	93	73	136	184
計	1,431	1,435	1,188	1,270	992
一日平均利用者数	5.9	5.9	4.9	5.3	4.1

※視覚リハ指導員の訓練実施回数は、相談支援事業と重複記載している。

(2) 健康管理

看護師による血圧測定のほか、健康維持・管理のための必要な支援を行った。

(3) 相談支援

利用者及びその家族が抱えている課題に対する相談・助言等を、ソーシャルワーカーや相談員により行った。また、必要に応じて関係機関との連絡調整等を行った。特にケースの計画相談を担当している相談支援事業所から招集される担当者会議へは担当セラピストと共に積極的に参加し、ケースに関わる事業所間の連携強化に努めた。(平成 30 年度担当者会議への出席:15 件)

(4) 送迎サービス

車両2台で、送迎サービスを実施。週に1回(往復)を基本としているが、希望者には週に1回の片道送迎を加えて実施した。(平成 30 年度送迎サービス実施延べ人数:1,264 人)

(5) その他

日常生活の中で外出する機会が少ない利用者を対象に、心身のリフレッシュを図り、活動意欲を高めてもらうことを目的に屋外活動を実施した。スタッフの見守りのもと公共交通機関を利用したり、屋外歩行を体験することで、実生活に応用できる訓練としても貴重な機会となっている。

(各グループ、概ね年に2回程度実施。合計9回。)

また、利用者同士で協力して行う調理の過程を楽しんでもらいながら、家庭生活に活かしてもらえる取り組みとしてクッキングを実施した。

① 屋外活動

	目的地		目的地
4月	帆船祭り	10月	長崎県庁
5月	みらい長崎ココウォーク	11月	長崎県立美術館
6月	長崎県庁	1月	諏訪神社
7月	長崎県庁	2月	アミュプラザ長崎
10月	夢彩都		

②クッキング「ピザづくり」

実施日:7/18(水)、8/24(金)、10/11(木)、11/27(火)、計4回

3 管理体制

自立訓練(機能訓練)事業管理者 穂山 富太郎

自立訓練(機能訓練)事業サービス管理責任者 吉村 優子

【総論】

平成 30 年度は、新規契約者 13 名に対して終了者が 15 名となっており、登録者数は年々減少している。それに伴い、訓練件数も前年度比 2 割減という結果であったが、その主な要因として、介護保険の通所リハビリテーションとの競合が挙げられる。

利用者の傾向としては、平成 30 年 4 月の制度改定に伴い、身体障害者手帳だけでなく精神保健福祉手帳や療育手帳所持者も自立訓練の対象となったことにより、高次脳機能障害や統合失調症などの精神症状を主たる障害とする利用者の割合が高くなってきていること、また介護保険事業所では難しいとされている視覚障害者や聴覚障害者へのリハビリが年々増加していることが挙げられる。

このほか、肢体障害に加え聴覚障害を重複している利用者も数ケースあるなど、多様なニーズに対する支援が求められるようになってきており、今後も当事業所の専門性と多職種連携という強みを活かして支援していきたい。

Ⅶ 障害者就労支援相談所運営事業

障害者の就労に関する支援を行い、障害者の自立と社会参加の促進に努めた。
また、就労のための相談支援、雇用準備のための支援、情報提供などを実施した。

1 事業内容

- (1) 就労相談：発達障害者を含む障害者の就労に関する相談
- (2) 就労支援：就労面接や生活全般の助言、就職先の定期訪問、定着指導
- (3) 情報の収集及び提供：求人情報の把握と提供、実習情報の収集と提供
- (4) 関係機関との連携：ハローワークへの紹介アシスト、求人・求職情報の共有による連携、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター及び就労支援施設との連携

2 就労支援相談の状況

- (1) 障害別新規登録者数 (単位：人)

障害区分	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	その他	合計
新規登録者	10	13	22	6	1	52

- (2) 主な就労相談支援状況

	新規登録者	有効登録者	来訪相談	電話相談	紹介	就職	施設入所
26年度	58人	—	605件	141件	74件	25人	23人
27年度	30人	—	470件	108件	53件	24人	11人
28年度	61人	111人	401件	32件	34件	13人	10人
29年度	67人	146人	359件	73件	23件	16人	15人
30年度	52人	115人	333件	97件	23件	21人	6人

※30年度就職数21人の内、引き続いての就労者数は18人（平成31年3月31日現在）
※新規登録者数は長崎市障害者就労体験事業の応募者23名を含む。

- (3) 相談・訪問件数等の推移 (単位：件)

	室内業務					室外業務				合計
	来訪相談	電話相談	関係機関打合せ	その他	計	施設訪問	企業訪問	その他	計	
26年度	605	141	24	2,008	2,778	42	3	70	115	2,893
27年度	470	108	35	2,064	2,677	21	2	61	84	2,761
28年度	401	32	28	1,764	2,225	22	4	65	91	2,316
29年度	359	73	54	1,672	2,158	66	4	70	140	2,298
30年度	333	97	85	1,737	2,252	42	7	68	117	2,369

※ 室内業務「その他」は、実習・求人情報提供、施設定着確認等。室外業務「その他」は、関係機関訪問等。

【総論】

障害者雇用率が2.2%へ0.2%引き上げられ、雇用率達成へ向けて障害者対象求人の増加が続いているが、採用条件に技能、資格、免許、経験を求める募集が多々みられ、当センター登録者が応募できる求人は少なく依然として厳しい状況にある。

就職者数は21名と前年度より5名増えているが、これは官公庁における雇用率達成へ向けての求人増加によるところが大きい。当センター登録者は即一般就労移行が難しい方が多く、関係機関と連携した支援が増加しており、今後も関係機関との連携強化が重要と思われる。

VIII 児童発達支援センター「さくらんぼ園」単独通園

保育・療育計画、行事計画に沿って事業を実施した。

1 療育方針

心身の発達に遅れのある児童を早期療育することで、個々の成長と発達状況に応じた様々な遊びを経験させ、認知・行動・感覚の発達を促し、健康な身体づくり、基本的な生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成等を図った。

家族との連携を密にし、児童の発達状況に合った療育をするとともに、関係機関と連携を図り、質の高いサービス提供と早期療育システムの確立に努めた。

2 日課

8:50 10:00 10:30 11:30 13:00 14:30 15:50

バス内指導	自由遊び 日常生活指導	保育・療育	給食 食事指導	自由遊び 日常生活指導	バス内指導
-------	----------------	-------	------------	----------------	-------

3 療育内容

障害の程度や発達段階、年齢等を考慮したクラス編成による集団での療育を実施した。また設定療育を毎日行い、週に1回は親子療育(プール活動)を実施した。

(1) 療育内容とねらい

①音楽遊び

音やリズムにより、心身ともにリラックスできる楽しい雰囲気の中で、児童の興味や発声、動きなどを引き出す。

②運動遊び

身体全体を使うことで運動機能を高め、ボディイメージを育む。

③触覚・感覚遊び

様々な素材に触れる経験をさせ、情緒の安定と感覚過敏の軽減を図り、手先の巧緻性を高める。

④認知課題遊び

カードや模型、実物などをマッチングすることで、物への関心を高めさせるとともに弁別力を高め、事物の名称を獲得する。

⑤絵本の読みきかせ、手遊び、ペープサート等

ことばの理解を高め、傾聴態度を育てる。

⑥製作

操作性を高め、集中力を身につける。指示や説明を聞き、ことばの理解を高める。

⑦戸外遊び

近隣の公共の場を散歩し、外気に触れる。

公園の遊具で順番や交替など集団のルールに沿って遊ぶ。

4 クラス編成

ぱんだ組 10名(男児8名、女児2名)

重度の障害児や発達障害児など障害や発達の程度、年齢が様々な児童が在籍するクラス

うさぎ組 11名(男児6名、女児5名)

重度の障害児やダウン症児など障害や発達の程度、年齢が様々な児童が在籍するクラス

ぞう組 12名(男児11名、女児1名)

自閉スペクトラム症児やダウン症児を中心とした主に年長児のクラス

5 給食

児童の摂食の状態に合わせた調理に努め、栄養バランスのとれた食事を提供した。併せて食事面での自立を図るための指導を行った。

①給食

- 給与栄養目標量を満たした給食の提供
- 偏食の改善や食べる意欲を高めるための給食の提供
- 嗜好、季節感、衛生面を考慮した給食の提供
- 咀嚼能力、嚥下能力に応じた給食の提供

②特別食

- 咀嚼機能や嚥下機能の発達に応じた個別の食事形態にした
 - 粗刻み食 (9名)⇒主食の麺及び主菜・副菜を咀嚼能力に合わせて刻んだ給食
 - 極小刻み食(3名)⇒ごはん…普通ごはん+粥での提供
 - その他の主食(麺)及び主菜・副菜は極小刻みにして給食
 - ムース食 (1名)⇒主菜、副菜をミキサーにかけ凝固剤で固めムース状にして提供
 - ムース追加食(5名)⇒刻み食にムースを追加することで嚥下を促すようにした
- 咀嚼機能を高めるための対応(16名)
 - ⇒厚みのある肉を1cm角やスティック状のカット、果物のスライス、スティック状にカット
- 手指の機能を高めるための対応(7名)
 - ⇒自助器の使用(皿・斜皿・スプーンなど)麺のカット、果物のカット
- アレルギー除去食対応(1名)
 - ⇒アレルギー児への食可能な調理法の徹底
- マナーを身につけるための対応(12名)
 - ⇒器を持つての所作、スプーンを使つての自食の為の自助器の使用
- 偏食への対応食(10名)
 - ⇒食べられない食材や料理を食べられるようにする為に別食器を用意して別個に食べたり調理手順を変更、一皿の料理を食材ごと盛り付けた
- 就園・就学先への情報の提供(13名)
 - ⇒特別食について情報提供書「もぐもぐ」を作成し就園・就学先に提出した

6 年間行事

①主な年間行事

実施月	行事名	実施月	行事名
4月	始園式	10月	秋の遠足
5月	子ども日の集い	11月	運動会
	春の遠足 歯科健診	12月	内科健診、クリスマス会
6月	保育参観、内科健診	2月	豆まき
7月	夏祭り	3月	ひな祭り 卒園式

※毎月、誕生会・避難訓練を実施。

②交流保育

実施日	交流先及び内容
7月3日(火)	稲佐保育園訪問(ぞう組) 泥んこ遊び
7月12日(木)	山里保育園訪問(ぼんだ組) 泥んこ遊び
7月24日(火)	稲佐保育園訪問(ぞう組) 新聞紙遊び
8月6日(月)	中央保育所訪問(うさぎ組) 夏祭り
10月19日(金)	山里平和保育園年長児来園 全クラス交流
10月23日(火)	稲佐保育園年長児来園 全クラス交流
11月6日(火)	中央保育所年長児来園 全クラス交流
11月13日(火)	中央保育所年中児来園 全クラス交流

7 在籍児の利用状況

(1) 年齢別及び障害別内訳

年度末現在

年 齢	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
自閉スペクトラム症	3	7	4	8	22
多動 + SD	0	0	0	1	1
精神運動発達遅滞	0	0	1	0	1
精神運動発達遅滞 + 染色体異常	1	0	0	0	1
ダウン症候群	1	0	1	1	3
脳性麻痺 + 小頭症	0	1	0	0	1
脳性麻痺 + ウエスト症候群	0	0	0	1	1
急性壊死性脳症	0	1	0	0	1
左心低形成症候群	0	1	0	0	1
揺さぶられっ子症候群 (ShakenBabysyndrome)	0	1	0	0	1
その他	0	0	0	0	0
合 計	5	11	6	11	33

(2) 卒・退園児、就学・就園先

就園・就学先	人 数
長崎県立鶴南特別支援学校	3
長崎県立虹の原特別支援学校	2
長崎県立長崎特別支援学校	1
長崎市立福田小学校特別支援学級	1
長崎市立西北小学校特別支援学級	1
長崎市立西城山小学校特別支援学級	1
長与町立長与南小学校特別支援学級	1
長与町立長与北小学校特別支援学級	1
医療型児童発達支援センターにこここ園	1
計	12

(3) 園児の出席状況

年 度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
開所日数	236	235	236	233	234	236	235
延べ在籍児数 ①	7,552	6,972	7,222	7,303	7,437	7,255	7,675
延べ出席児数 ②	5,452	5,160	5,326	5,407	5,907	6,370	6,256
②÷①×100	72.2%	74.0%	73.7%	74.0%	79.4%	88.0%	81.5%

8 専門スタッフとの連携

児童にけいれん発作や体調の悪化等が生じたときは、速やかに診療所に連絡を取り、医師・看護師による指示のもと対応した。

療育の質を高めるため、療育支援会議に参加し、医師、セラピストとケース検討を行った。
また各クラスとも毎月、担当セラピストと合同勉強会を行い、支援目標や療育内容についての指導・助言を得た。

9 家族支援

個別支援計画作成、家庭訪問、個人面談等を行うに当たっては、保護者と連携を取って実施したことで、職員と保護者間の信頼関係を築くことができた。

また保護者向けの勉強会である家族教室(年12回実施)では、当センターのセラピストやソーシャルワーカーなどによる講座だけではなく、管理栄養士による調理実習や、就学について教育研究所に講座を依頼するなど、内容に幅を持たせるとともに、保育参観日と重ねて実施することで父親が参加しやすくなるように配慮した。

また、今年度から、ペアレントプログラムを開始し(5月～7月)、保護者から好評を得た。

《家族教室の開催状況》

日程	テーマ・主な内容	担 当
4月	新年度を迎えて	園長 担任保育士
5月	子どもの遊びを体験してみよう	作業療法士
6月	就学について	教育研究所
7月	病気の時の家庭での過ごし方	看護師
8月	先輩ママの体験談	卒園児保護者
9月	ことばとコミュニケーションを育てるために	言語聴覚士
10月	楽しくクッキング(給食献立)調理実習	管理栄養士
11月	さくらんぼ園の療育について・クラス懇談会	担任保育士
12月	就学に向けて～福祉サービスの利用について～	社会福祉士
1月	ちょこっとだけペアレントトレーニング	臨床心理士
2月	ペアレントメンターと話そう	ペアレントメンター3名
3月	一年をふりかえって(クラス懇談会)	園長、担任保育士

10 就学支援

就学支援については、保護者が就学先を選択しやすいうように学校公開や体験入学等についての情報提供を行った。

また就学後も一貫した支援が受けられるよう、情報提供書による情報交換や学校訪問等を行った。

支 援 先	件数			
	訪問	来園	情報提供書	電話
長崎県立鶴南特別支援学校	1	1	3	
長崎県立虹の原特別支援学校	1		2	
長崎県立長崎特別支援学校			1	
長崎市立福田小学校特別支援学級	1		1	
長崎市立西北小学校特別支援学級	1		1	
長崎市立西城山小学校特別支援学級	1		1	
長与町立長与南小学校特別支援学級	1		1	
長与町立長与北小学校特別支援学級	1	1	1	
合計	7	2	11	0

11 地域との連携

就学後利用予定の放課後等デイサービスの事業所等に対して情報提供を行った。また就園前や就園後(並行通園も含む)においても、就園先を訪問したり、来園していただき児童の発達状況に応じた課題設定や環境整備、対応法などの情報交換を行った。

連 携 先	件 数		
	来園	訪問	情報提供書
時津幼稚園	1		
上長与幼稚園		1	
矢上幼稚園		1	1
放課後等デイサービス等		1	13
相談支援事業所			2
短期入所施設			1
合 計	1	3	17

12 研修(施設内研修)

①外部講師による研修会

日程	内 容	担 当
6/8	技術支援：きりん組もも・いちごグループ 講 座：意欲を育てる関わりについて	長崎県立こども医療福祉センター 言語聴覚士：堀 裕子先生
8/9	技術支援：ぱんだ組、ぞう組 講 座：保護者支援について	長崎県立こども医療福祉センター 言語聴覚士：堀 裕子先生
10/10	保護者支援 ～家族支援に役立つ面接のコツ～	長崎大学子どもの心の医療・教育センター 副センター長：岩永 竜一郎先生
10/24	発達障害児の自己理解について	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授 岩永 竜一郎 先生
11/22	プールの活動について(実技)	理学療法士：尾崎 泰規先生
12/21	プールの活動について(実技)	理学療法士：尾崎 泰規先生

②センター講師による研修会

日 程	内 容	担 当
5/30	発達障害の理解と支援について	リハ療育課長(作業療法士)
7/11	肢体不自由児と発達障害児の運動発達について	センター長
1/9	相談支援と児童発達支援の関係について	支援課長(社会福祉士)
2/13	虐待研修	園長・保育士
3/27	遊びのワークショップ	全保育士

③実習生や見学者、ボランティア等の受入れ

実 習 生	長崎大学医学部作業療法専攻実習	1名	5月7日～6月22日
	〃	5名	9月3日、6日、10日、13日、21日
	〃	1名	10月12日、19日、26日
	〃	1名	11月9日、16日
	純心大学こども教育保育学科実習	1名	1月7日～2月 日
	〃 地域包括支援学科実習	1名	8月20日～8月31日
生	活水女子大学健康生活学部子ども学科実習	1名	〃
	〃	1名	9月4日（準備実習）
ボ ラ ン テ ィ ア	活水女子大学健康生活学部子ども学科	名	7月27日 夏祭り
	〃	1名	11月23日 運動会
	長崎リハビリテーション学院	2名	〃
	イオンまごころサンタ	8名	12月10日 ミニクリスマス会
	長崎経済交流会	4名	12月21日 クリスマス会
見 学	子ども発達センターあおいとり		4月27日
	長崎市新規採用保育士	2名	6月28日
	長崎女子短期大学	9名	11月9日
	長崎大学医学部生		2月22日
	長崎大学医学部理学療法専攻	3名	2月22日

13 管理体制

児童発達支援センター「さくらんぼ園」管理者 増田 ゆかり
 児童発達支援センター「さくらんぼ園」児童発達支援管理責任者 川崎 和枝

【総論】

- 前年度に比べ、延べ在籍児数は増加しているが、延べ出席児数・出席率は減少している。その要因は、他の事業所等の併用については考慮してクラス編成を行っているものの、医療的ケア児の入退院、家庭の都合等で継続的な通園が困難だった児、また、地域の保育園・幼稚園・認定こども園との並行通園等の複数が挙げられるが、医療的ケア児や重複の重度児の受け入れについては社会資源の不足もあるため、できるだけ今後も取り組んでいきたい。
- 一人の児童が複数の事業所や関係機関から支援を受けることが多くなり、より一層、連携した支援が必要であることから、電話や文書によるやりとり、訪問等による情報交換を密に行った。特に保育園・幼稚園へ移行する際の支援については、途切れのない支援になるように支援目標や内容、手立て等を具体的に伝え、児童と保護者の不安軽減に努めた。
- 就学支援については、療育情報提供書「にこにこ」や給食情報提供書「もぐもぐ」などに加え就学先と相互に訪問・見学が実施でき、よりきめ細かな情報提供ができた。
- 当園には、常時の見守りや介助が必要な肢体不自由児が在籍しており、発達障害や知的障害などの児童についても年齢や発達状況は様々で、一人ひとりに適切な保育・療育を行うためには、職員の研修・自己研鑽が必要である。
 そのため、平成29年度に引き続き、長崎県立諫早こども医療福祉センターの技術支援を活用し、実際の保育・療育場面を通して助言・指導を受け療育技術の向上を図った。
 また、ペアレントプログラム支援者研修を担当できる職員を育成し、保護者支援に役立てた。
 この他にも療育支援会議への参加、セラピストとの毎月の合同勉強会を継続して実施した。
- 安全面については、環境整備点検及び遊具点検等を実施した。併せて、ヒヤリハットの報告と報告書作成、職員への周知を徹底するなど事故防止に活かした。
 今後も安心安全な環境づくりに努めたい。

児童発達支援センター「さくらんぼ園」 親子通園

児童の発達状況と障害の程度を考慮したグループ分けをし、それぞれに対する発達支援に努めた。
(16グループの編成で実施)

セラピストの支援については、年長児グループを中心に関わり、保護者支援としてセラピストによる就学支援と保護者講座等を実施した。

1 グループ編成

	月	火	水	木	金
午前	F りんご	A みかん	E ひめりんご	C ぶどう	H もも
	発達障害 (3～4歳児)	自閉症スペクトラム (1～2歳児)	発達障害 (2～3才児)	自閉症スペクトラム (2～3才児)	自閉症スペクトラム 2～3才児)
		G めろん		D ばなな	B いちご
自閉症スペクトラム (1～2歳児)	精神発達遅滞 (1～4歳児)	精神運動発達遅滞 脳性まひ他 (未歩行) (1～5歳児)			
午後	N ひよこ	L(第1・3) ちゅーりっぷ O(第2・4) なのはな	I(第1・3) さくら P(第2・4) すみれ	M あじさい	J(第1・3) ひまわり K(第2・4) たんぼぼ
	発達障害 (年中・年長児)	発達障害 知的障害 (年長児)	発達障害 知的障害 (年長児)	発達障害 知的障害 (年中・年長児)	発達障害 知的障害 (年長児)

2 療育内容

①A・Gグループ

自閉スペクトラム症とその疑いのある児を対象に超早期療育を実施し、保育士が1対1で関わり、遊びを通して対人関係の力を身につけることを目的とした。

作業療法士はそれぞれの専門的な視点で関わり、家庭での親子の関わりについても助言を行った。

②Bグループ

親子でのふれあい遊びを中心に感触遊びや音楽遊びなど様々な活動を取り入れ、月1回言語聴覚士が摂食について指導助言を行った。

③C・Hグループ

Aグループの終了後も継続して自由遊び場面で対人関係を学び、それに加えて短時間の設定療育を取り入れながら小集団療育に移行するための準備に取り組んだ。

④Dグループ

着脱や排泄など基本的な生活習慣の自立を目指した働きかけを行い、対人関係の力を身につけ、運動能力の向上を目的とした様々な遊びや活動を行った。

⑤Eグループ

基本的な生活習慣の自立と、自由遊びと短時間の設定課題を通して、やりとりのルールや簡単な指示に沿って行動することなど集団で必要なスキルを身につけることに取り組んだ。

⑥Fグループ

Eグループで学んだことに加え、基本的な生活習慣の確立と、簡単なルールのある遊びや設定課題を通して、社会性を高め就園に向けて集団生活に必要な力を身につけることに取り組んだ。

⑦I・J・K・L・O・Pグループ

集団生活に必要なスキルを身につけること、行動や感情のコントロールができるようになること、自

分の気持ちを言葉で伝えたり、人との良い関わりができるようになる力を育てることなどに取り組んだ。
セラピストはそれぞれの専門的な立場から助言指導を行い、保護者ミニ講座を実施した。保育士は活動の目的を説明したり、就園先や家庭での悩みや心配事に対応するために懇談会を実施した。

I：臨床心理士、保育士 J：作業療法士、保育士
K：作業療法士、保育士 L：言語聴覚士、保育士
O：言語聴覚士、保育士 P：臨床心理士、保育士

⑧M・Nグループ

運動能力の向上や社会性を高めること、状況に応じたことばの表現の獲得などを目的に、小集団で行うゲームや製作、様々な設定課題に取り組んだ。また活動を通して成功体験を積み自信が持てるようにした。また懇談会では、保護者同士情報交換をしたり、保育士から悩みや心配ごとについて提案や助言を行った。

3 年間行事等

・運動会やクリスマス会、節分等の季節の行事を実施、また毎月、避難訓練を実施した。

4 利用状況

(1) 年齢別・障害別内訳

年度末現在

年 齢	0才児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
精神発達遅滞	0	1	1	3	4		9
精神運動発達遅滞	0	0	1	0	2	1	4
自閉スペクトラム症	0	1	3	3	7	10	24
自閉スペクトラム症(疑い)	0	1	0	6	4	6	17
注意欠如・多動症	0	0	0	1	0	8	9
注意欠如・多動症(疑い)	0	0	0	2	4	20	26
言語発達遅滞	0	0	6	4	0	5	15
境界領域知能	0	0	0	0	0	2	2
ダウン症	0	0	0	0	0	1	1
重症心身障害児	0	0	0	0	1	0	1
構音障害	0	0	0	0	0	2	2
その他	0	0	1	3	0	1	5
合 計	0	3	12	22	22	56	115

(2) グループ別登録児数

年度末現在

グループ	A	B	C	D	E	F	G	H	I
登録児数	3	5	7	7	8	9	2	8	10
グループ	J	K	L	M	N	O	P	計	
登録児数	8	8	9	9	7	7	8	115	

5 進路状況(契約終了後の処遇状況)

就 園	外来療育	2人
	療育終了	2人
他の事業所		2人
その他(転居等)		1人
合 計		7人

6 園児の出席状況

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
開所日数	243	242	243	239	236	237	235
グループ数	6	6	14	16	16	15	15
在籍実人数	89	80	83	119	122	114	115
延べ出席児数	1,815	2,345	1,604	2,557	2,680	2,336	2,411
1日平均人数	7.5	9.7	6.6	10.7	11.3	9.9	10.3

7 保護者支援

年長児の保護者を対象に、就学に向けての情報提供や、発達状況や特性、保護者の悩みや疑問に合わせてミニ保護者講座と懇談会を実施した。ちなみに「L ちゅーりっぷ」と「P すみれ」では、次の内容で実施。

また、さくらんぼ園(単独通園)と合同で家族教室を実施し、療育支援や育児支援についての情報提供を行った。

	L ちゅーりっぷ(ST)	P すみれ(CP)
5月	【ミニ講座】就学の流れについて	【ミニ講座】就学前相談について
6月	【懇談会】子どもの名前・好きな遊び	【懇談会】グループの目標・自己紹介
7月	【ミニ講座】グループの目的について	【ミニ講座】発達検査について
8月		【懇談会】サーキット体験
9月	【ミニ講座】ことばの話～就学に向けて	【ミニ講座】上手な指示の出し方
10月	【懇談会】就学に向けて	
11月	【ミニ講座】就学前にできてほしいこと	【ミニ講座】放課後等デイサービスについて
12月	【懇談会】冬休みの過ごし方	【懇談会】冬休みの過ごし方
1月	【ミニ講座】学習について	【ミニ講座】1年間の振り返り
2月	【懇談会】1年間のまとめ	【懇談会】1年間のまとめ

※4月はアセスメントやモニタリング等、3月は情報提供書「にこにこ」の説明等の個人面談を実施。

【総論】

親子通園では、児童それぞれの特性に合った支援を行うために、センター診療所及びリハ療育課の情報をもとにグループ編成を行い、支援目標及び支援内容を明確にするなど、児童それぞれの発達状況と発達特性に合わせた療育方針とした。

個別支援計画の説明や保護者の意向の確認、モニタリング等を定期的に行い、他にも保護者の不安や心配事に丁寧に対応するために必要に応じて随時個人面談を実施した。さらに保護者の要望に応じて児童が所属する保育園や幼稚園、認定こども園との連携を取るために電話でのやりとりや相互に訪問・見学を行い、親子通園の目的や内容を説明し、保護者が保育と療育の両方を負担なく継続できるように努めた。

また、各園の取り組みや児童の様子を把握し共通理解をもって療育を実施できるようにした。

きりん組は、センター診療所及びリハ療育課からの紹介が多く、保護者にとっては医療における療育支援から児童福祉サービスにおける療育支援の入り口でもあるため、今後も保護者の意向を大切にしながら丁寧な説明を行い、円滑に療育支援が継続できるように努めたい。

IX 診療所

保険診療機関として、整形外科・リハビリ科、小児科、精神科(月1回)の外来診療を行っている。発達障害児(疑いも含む。)に対する診療・評価・薬物治療を行うほか、診察・評価結果に基づき適切な訓練・療育を行った。また月に1回の精神科外来においては、行動障害や精神的に不安的な状態についての判断や相談にも応じた。

1 診療数

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
整形外科	1,347	1,432	1,426	1,292	1,302
小児科	5,000	6,099	6,565	7,187	7,896
精神科	51	52	45	44	43
計	6,398	7,583	8,036	8,523	9,241

※診療数は毎年増加しており、総数で前年度より718人増。処方箋料件数5,660件で488件増。

(1) 整形外科・リハビリ科

①新患者数

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
新患者数	81	65	77	56	56

②新患の年齢別・障害別内訳

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小学生	中・高	19歳以上	合計
脳性麻痺	2	3	0	0	1	0	0	0	2	8
運動発達遅滞、または障害	5	2	1	3	0	3	0	0	0	14
精神運動発達障害	5	1	0	0	1	1	0	0	1	9
精神発達遅滞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳血管障害(片麻痺)	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
外傷疾病後遺症	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
関節症などその他障害	1	0	2	1	2	0	3	0	6	15
計	13	6	3	4	4	4	3	0	19	56

※ 新規患者のうち0歳、1歳からの早期療育開始児が約33.9%を占めている。

※ 国立病院機構長崎病院と連携したボトックス治療を小児50人(前年度61人)、成人17人(前年度25人)、計67人(前年度86人)に実施した。

※ 脳性麻痺児に対する痙性抑制キャストを延べ30人行った。

※ 近隣病院の理学療法士及び理学療法士学生・義肢装具士学生に整形外科外来で診察見学と指導を行った。

※ 2事例において、新生児行動評価を活用し、母の不安の軽減と児の発達促進を図った。

③紹介元機関

長崎大学病院	13	センター(A型センター)	5
その他の病院	14	直接相談	15
センター内小児科	7		
乳幼児健診(こども健康課)	2	計	56

(2) 小児科・リハビリ科

①新患数

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
新患数	551	456	495	496	532	625

※平成30年度の診療待機平均期間は、約4ヶ月。

②新患の年齢別・障害別内訳

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学生	中学生	高校生	高校生以上	合計
精神発達遅滞	0	0	5	9	2	6	2	2	2	0	0	28
運動発達遅滞・障害	0	4	2	2	1	0	0	1	0	0	0	10
自閉スペクトラム症	0	4	42	48	30	14	12	20	3	0	1	174
注意欠如・多動症	0	1	11	44	65	58	16	102	13	0	2	312
言語発達遅滞	0	2	22	18	12	2	2	0	0	0	0	58
構音障害	0	0	0	1	5	11	1	1	0	0	0	19
吃音	0	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	5
限局性学習症	0	0	0	0	0	0	0	7	2	0	0	9
適応障害	0	0	0	0	2	1	1	3	1	0	5	8
定常発達	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
計	0	11	82	123	119	93	34	139	21	0	3	625

※1. 未就学児が約74%、学童児が約26%。(昨年は未就学児が77%、学童児が23%)

2. 診断名では注意欠如・多動症が最も多く約50%、次に自閉スペクトラム症が約28%と続く。

③紹介元機関

乳幼児健診(こども健康課)	199
直接相談	116
センター巡回相談	108
小、中学校・教育機関	64
幼稚園・保育園	47
その他の病院	29
その他の療育施設	23
センター内整形外科	15
長崎大学病院	14
行政機関	10
計	625

※例年同様、乳幼児健診からの紹介が多く全体の32%、次に直接相談が19%を占めている。

④主訴

落ち着きのなさ	151
言葉の遅れ	148
対人関係・社会性の遅れ	75
不注意・注意力散漫	67
かんしゃく・感情コントロール	59
発音不明瞭、吃音	35
学習面の遅れ	24
こだわり	23
発達全般の遅れ	18
感覚過敏	8
適応障害	6
運動面の遅れ	5
場面緘黙	3
その他	3
計	625

2 療育・リハビリテーション

理学療法士 6 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 4 名、臨床心理士 4 名で、次の内容で実施した。

- (1) 評価、個別療育
- (2) リハビリテーション実施計画書及び経過報告書の作成
- (3) 療育内容証明書の作成
- (4) 検査結果報告書の作成
- (5) 支援会議の資料作成及び支援会議への参加
- (6) 勉強会 (月 1 回)
- (7) 理学療法士については、整形外科外来診察補助 (毎週木曜日午後)
- (8) 早期療育外来診察補助 (毎週木曜日午前) 理学療法士は毎週

《セラピストの訓練数》

	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
理学療法士	3,161	3,275	3,448	3,247	3,186
作業療法士	3,238	2,848	2,508	2,565	3,334
言語聴覚士	3,375	2,994	2,592	1,658	2,069
臨床心理士	915	936	918	858	991
計	10,689	10,053	9,466	8,328	9,580

【平成 30 年度件数の増加の要因（「外来による療育指導件数」の減少理由再掲）】

育児休業からの復帰（作業療法士、臨床心理士）と平成 29 年度新入職員だった作業療法士、言語聴覚士 (2 名) の通常業務が可能となったため。

3 講演会の実施

平成 26 年度から、長崎市教育委員会の依頼で、小・中学校の支援員・小学校等の教師を対象に、医師、セラピストが講師となり、薬物治療やセンターでの療育の内容等、学校で役立つ取組みについての講義を行った。

《市教育委員会教師等に対する講演会》

長崎市特別支援教育支援員研修会	
テーマ	長崎市障害福祉センターの療育について
講師	作業療法士、理学療法士
日時・場所	平成 30 年 5 月 30 日 (水) 長崎市障害福祉センター研修室
対象	市教委小・中学校特別支援教育支援員
参加者数	約 90 名
長崎市教育研究所夏季研修講座	
テーマ	長崎市障害福祉センターの療育について
講師	医師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士
日時・場所	平成 30 年 7 月 31 日 (火)、8 月 2 日 (木) 長崎市障害福祉センター研修室
対象	市教委小学校教師、特別支援学校教師
参加者数	約 90 名

4 巡回相談（保育園・幼稚園等）

発達障害児の早期発見・早期支援のため、平成 18 年度から長崎市内の保育園・幼稚園・こども園の巡回相談を実施している。

平成 30 年度は、作業療法士・言語聴覚・臨床心理士の内 2 名を 1 組として相談希望のあった園の支援を行った。2 名での巡回相談が定着し、1 回の巡回相談で複数名の児の申し込みが増えたため、延べの訪問件数は少なくなったが、相談児数は変わらなかった。

《年度別巡回相談の実施状況》

	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
巡回数(箇所)	114	129	148	195	164
新規相談数	289	288	297	391	397

5 学童グループ

小学生は年間を通して、中学生では、前期(4月～9月)に療育を行った。放課後デイサービスなど学童期の福祉サービスが充実してきており、グループ希望者が減る傾向にある。

① 学童グループ数の推移

	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
グループ数	9	6	4	4	5
訓練総数	347	191	218	184	235

② 小・中学生のグループ内容

グループ	学童 1 (あおぞら)	学童 2 (ハッピー)	学童 3 (なかよし)	学童 4 (つばさ)	学童 5 (中学生)
年齢	小 1～2	小 5～6	小 3～5	小 4～6	中学生
対象	ADHD・ASD	ADHD・ASD	ASD・ADHD・LD	ASD・ADHD・LD	ASD・ADHD
目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 他児を意識し、その中で仲間関係を育む。 ① 他児を意識し、協力する。 ② ルールやマナーを守り、他者に配慮した適切な行動を学ぶ。 ③ 相手の思いを受け入れ、自分の思いを相手に上手く伝えることを学習する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他児との適切な関わり方を学ぶ ① 他児とのやりとりの仕方や言葉の選び方・協力の仕方・相手に配慮した関わり方などのコミュニケーションの方法を学ぶ。 ② 自分の気持ちの伝え方を学び、集団の中で認められる経験をすることで自信をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他児を意識し、その中で仲間関係を育む。 ① ルールを理解し、守る経験を通して、自信をつける。 ② 相手の気持ちを受け入れ、自分の気持ちを伝える経験をすることで友達との適切な関わり方を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 集団活動を通して、他児とのコミュニケーション及び社会生活に必要なスキルを学ぶ。 ① 行動調整 ② 人の意見を聞く、受け入れる。 ③ 自分の意見を言う。 ④ やりとりの練習 ⑤ ゲームの中で協力の仕方を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 集団活動を通して、他児とのコミュニケーション及び社会生活に必要なスキルを学ぶ。 ① ルールやマナー友達への適切な関わり方を学ぶ。 ② 自分の気持ちを表現することで、他者に認められる経験をし、他者の気持ちと自分の気持ちの違いに気付く。
実施回数	11 回	10 回	10 回	11 回	6 回
延べ人数	57 人	48 人	60 人	54 人	16 人

6 ペアレントトレーニング

平成 30 年度は、小児科医、臨床心理士がチームを組んで、前期・後期の 2 グループ (各 10 回) を実施した。

さらに、前年度前期と後期の保護者を対象に、ペアレントトレーニングの効果を継続させることと、その後の経過観察を目的としたフォローアップを 2 回行った。

また小グループでのペアレントトレーニングは、今年度は対象者がいなかったため、実施しなかったが、通常のグループの欠席者に対しては個別で補講を 4 回行った。

【参考：ペアレントトレーニングとは】

発達に課題を持つ子どもに対して、身近にいる家族こそが子どもに適切な行動を学習させる一番の訓練者になれるという考えに基づいたプログラム。

このプログラムを通じて、子育てについての悩みを親同士で話し合い、それぞれの子どもの行動を理解し、適切な対応を一緒に考え学習していくことを目的としている。

① 平成 30 年度の実施状況と登録者数

	期 日	登録保護者
前 期 10 回	5 月 9・23 日、 6 月 13・27 日、 7 月 11・25 日 8 月 8・22 日、 9 月 12・26 日	6 人
後 期 10 回	11 月 14・28 日、 12 月 12・26 日 1 月 9・23 日、 2 月 13・27 日、 3 月 13・27 日	5 人
フォローアップ	4 月 11 日、 10 月 10 日	11 人

② 年度別実施状況と受講者数

	前期	後期	フォローアップ	合計	延べ人数
26 年度	5 人	6 人	4 人 (25 年度前期・後期対象者)	15 人	99 人
27 年度	5 人	6 人	3 人 (26 年度前期・後期対象者)	14 人	110 人
28 年度	5 人	6 人	8 人 (27 年度前期・後期対象者)	19 人	110 人
29 年度	6 人	5 人	7 人 (28 年度前期・後期対象者)	18 人	111 人
30 年度	6 人	6 人	8 人 (29 年度前期・後期対象者)	20 人	113 人

③ 利用者の意見等

「自分の悩みだったり他の例も聞いたり、悩みの共有ができてストレス発散になった」「自分の子どもに良いところもあったんだ、ほめるところあったと気付けた」などの感想が聞かれた。

参加前後に実施している「子育てに対する自信度アンケート」では、ほとんどの保護者が、参加後に高い得点になっており、この学習を通し、子育てに対する自信がついたものと考えている。

平成 30 年度は、家庭や仕事の事情のため途中でグループをやめた保護者が、前期・後期とも 1 名ずついた。前期のグループは他の参加者の出席率は高かったが、後期のグループはインフルエンザの流行等のため欠席した参加者がいた。事情により当日欠席した場合でも講義内容の積み重ねができるように、毎回、別の日に日程を合わせて個別で補講を行った。

X 母子生活支援施設「白菊寮」

白菊寮では、地域で安定した家庭生活を営むことができるよう、自ら努力し、希望を持って日々を過ごすことができる状態になることを「自立」の概念と捉え、母と子の主体性を尊重し、それぞれの入所者の課題に応じた自立支援計画を入所者とともに策定のうえ、具体的な支援方法に基づき関係機関と連携を取りながら支援した。

日常的な支援の中では、各世帯が抱える様々な悩み事の相談、児童の健全育成への指導、助言や寮内での生活に関する改善などの要望を聞くとともに、毎月の月例集会では、母子との意見交換を行うなど、安全で安心した生活が送られるよう取り組んだ。

また、年間行事では、入所者の意見を取り入れる等、参加しやすくなるように工夫を実施した。

1 入所者の状況

(1) 月別在籍数

	月末在籍者		月内入寮者		月内退寮者	
	世帯数	構成人員	世帯数	構成人員	世帯数	構成人員
4月	2	6	0	0	1	4
5月	2	6	0	0	0	0
6月	2	6	0	0	0	0
7月	2	7	0	1 (出生)	0	0
8月	2	7	0	0	0	0
9月	2	7	0	0	0	0
10月	2	7	0	0	0	0
11月	4	13	2	6	0	0
12月	4	10	1	2	1	5
1月	5	12	1	2	0	0
2月	5	12	0	0	0	0
3月	4	8	0	0	1	4
計			4	11	3	13

(2) 年齢別入寮者(母親)数

年度末現在

年齢区分	~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~	計
人員		1			1	1		1		4

(3) 年齢別入寮家族(子女)数

年度末現在

年齢区分	~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~12	13~14	15~16	17~18	計
男子			1		1					2
女子	1		1							2
計	1		2		1					4

2 事業実施状況

(1) 定例行事

行事名	実施時期	行事名	実施時期
定例会(月例集会)	月1回	個人指導・保護者面談会	随時
学習会	毎日(月~金)	防災訓練	月1回
健康診断	年2回		

(2) 月例行事

月	行 事 名
4 月	進級祝い会
5 月	こどもの日会、母の日会、野菜づくり
7 月	七夕集会
8 月	夏休み学習会
9 月	お月見会
10 月	秋のお楽しみ会
11 月	秋のお出かけ「長崎ペンギン水族館」へ行こう
12 月	クリスマス会

(3) 月例行事の実施概況

行事の実施に当たっては、入所児の年齢等を考慮し参加しやすい内容となるように努めた。

進級祝い会 4月3日(火)

○実施内容

参加者 子ども7人、母3人

- ・ 入所中の子どもは全員小学校又は保育所に在籍しているため、全員を対象に進級祝い会を実施し、小学生の子どもたちには、この一年間の目標を書いてもらう。
- ・ 職員が準備した、カレーライスを全員で食べ、進級祝いの品(ノート等)を手渡した。

○参加者の様子

- ・ 小学生の2人は、事前に説明していた目標を素早く記入した。

こどもの日会 5月1日(火)

○実施内容

参加者 子ども4人 母2人

- ・ 子どもの成長を願い、母も同席しかしわ餅を食べ楽しい時間を共有できた。
- ・ 折り紙の兜を用意し子どもたちへ配付した。
- ・ 5月5日には、市から届けられたお菓子を子どもたちに手渡した。

○参加者の様子

- ・ 兜を頭に載せたり、自分で作ったこいのぼりをみんなに見せたり、子どもたち一人一人が楽しく過ごせた。母たちは、楽しく過ごす子どもの様子を嬉しそうに見ていた。

母の日会 5月13日(日)

○実施内容

- ・ カーネーションを母親に渡して、日頃の感謝の気持ちを伝える。

○参加者の様子

- ・ 子どもから母へ感謝の気持ちを込めて手渡し、母は嬉しそうであった。

野菜づくり 5月上旬から

○実施内容

- ・ 夏野菜の苗を植え付け、水やりを通して野菜の成長を観察し、夏に収穫する。
- ・ 学校から帰宅した子どもと職員で野菜の苗(ピーマン、トマト)を植えた。

- 参加者の様子
 - ・ 野菜苗の成長、実が成るのを毎日楽しみにしていた。

七夕集会 7月6日(金)

- 実施内容
 - 参加者 母2人 子4人
 - ・ 家族の願い事を書いた短冊を玄関ホールの笹に飾り付けた。
 - ・ 夕方、玄関ホールで親子が集まりみんなで七夕の音楽を聞きながらゼリーを食べた。
- 参加者の様子
 - ・ 機嫌が悪く会への参加がスムーズに出来ない子もいたが、職員の声掛けで何とかみんなと一緒に過ごすことができた。
 - ・ 子を気遣う母がいる一方、子にうまく向き合えず職員の支援が必要な母もいた。

ベビーカステラ作り 8月29日(水)

- 実施内容
 - 参加者 母1人 子3人
 - ・ 小学高学年の男児がホットプレートを使ったベビーカステラ作りで調理する楽しさを経験し、できあがった物を他の子ども達と一緒に食べ、夏休みの思い出の一つとなった。
- 参加者の様子
 - ・ 調理の間に、男児と職員間で日常生活のこと等会話が弾み、日頃見ることができない男児の一面を理解することができた。

お月見会 9月26日(水)

- 実施内容
 - 参加者 母2人 子ども4人
 - ・ 事前に、玄関ホール壁面に月の満ち欠けについての説明を貼ったり、職員手作りのススキを飾るなどし、季節の行事に親しみが持てるようにした。
 - ・ 当日は、職員が準備した月に見立てたたこ焼きを子どもたちに渡した。
- 参加者の様子
 - ・ 子供たちはたこ焼きを手渡されるのを心待ちにしていたようでとても喜んでいました。

秋のお楽しみ会 10月17日(水)

- 実施内容
 - 参加者 母2人 子ども4人
 - ・ 例年夏休み期間中に実施していたお楽しみ会ができなかったため今年は秋に実施した。
 - ・ 空のペットボトルを使ったボーリングゲームや食事を楽しみ入所者同士の交流を深めた。
- 参加者の様子
 - ・ 家族だけの食事では嫌いで口にしない食材もみんなと一緒に食べる様子が見られた。
 - ・ 母も子もボーリングゲームに興じ、賞状、景品に喜んでいました。

秋のお出かけ「長崎水族館」へ行こう 11月17日(土)

- 実施内容
 - 参加者 母2人 子5人 引率者 母子支援員、少年指導員各1人
 - ・ ペンギン水族館で、いろんな海の生き物を見学したり、館内でのイベントに参加して楽しむことにより、子どもたちの健全育成を図り、在寮者相互のふれあいと交流を深める目的で実施。
- 参加者の様子
 - ・ 大好きな魚の水槽を食い入るように見ている子、ペンギンの動きに興味を持つ子、飼育員の説明を熱心に聞く子等、それぞれ年齢に応じて楽しんでいた。
 - ・ 事前に伝えていたイベント情報の中の関心のあるものに積極的に参加する子もいた。
 - ・ ジャンボタクシーでの移動中も車窓の景色に興味を示しながら目的地まで行くことができた。

クリスマス会 12月20日(木)

○実施内容

参加者 入所者:母5人 子10人 退所者:母1人 子3人

- ・ 事前にクリスマス用の飾りなどを職員で会場の集会室に飾り付けた。
- ・ 会食、ゲーム、ケーキを食べた後、サンタクロースに仮装した職員がプレゼントを渡した。

○参加者の様子

- ・ 学童児が他の入所者の子のお世話してくれ、母も落ち着いて参加することができた。
- ・ 母子ともに輪投げゲームは盛り上がり、子どもは自分の順番までの間、他の人を応援し楽しんでいた。
- ・ 退所者親子も久しぶりに会う入所者と楽しく会話が弾む様子が見られた。

ぜんざい会(鏡開き) 1月10日(木)

○実施内容

参加者 母3人 子6人

- ・ 鏡開きをしてぜんざいを食べ、1年の健康を願うとともに入所者同士の交流を図る。
- ・ 当日、職員が鏡開きの意味を子どもたちに投げかけると、母から聞いて知っていることや、自分なりに思っていること等を話す子もいた。その後、職員がその由来等を説明し、全員でぜんざいを食べた。

ひな祭り集会 2月28日(木)

○実施内容

参加者 母4人 子7人

- ・ 入所者の母が折り紙で作ってくれたひな人形を各テーブルに当日セッティングし、ひな祭りの雰囲気を作り出した。玄関に飾っていた親王飾りを集会室へ移動し、ひな祭りの音楽を流しながら会を進めた。
- ・ 小学生女兒が食事の始めと終わりの挨拶を行った。

○参加者の様子

- ・ 食事は全員美味しく食べて、おかわりをする子もいた。みんなでいっしょに食べることによって、普段は食べようとしなない苦手な物も良く食べていた。

3 入所者及び退所者支援

住居の喪失、DV被害、新生児世帯の入所など様々な課題を持った入所者に対し、長崎市子育て支援課はもとより、学校、警察、児童相談所など関係機関と連携を取り、入所者の自立に向けた支援に努めた。

当施設には心理職がいないため、事業団の臨床心理士及びソーシャルワーカーより必要に応じ専門的アドバイスを得て入所者支援に当たった。

退所を控えた世帯については、退所までの諸手続き、退所後の不安除去のための支援を行い、退所後に問題が生じた際には、いつでも相談に応じることができることを退所者に説明し、同意を得た退所者支援計画に基づく退所者支援の充実に努めた。また、退所者支援計画に基づく支援については要しないとした退所者に対しても、必要に応じ相談に応じる等支援を行った。

○退所者支援対象者世帯数 7世帯

○退所者支援計画策定世帯数 5世帯

○相談件数 117件

【相談内容】

子育てに関すること	69件	母親自身に関すること	39件
公的機関等の手続きに関すること	3件	その他	6件

障害福祉センターの主な利用状況等の推移

事 項 等	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
身体障害者福祉センターA型					
貸室利用者数(個人・団体)	89,395	90,529	90,279	90,102	87,233
A 型訓練数(自主訓練・スポーツレク等)	10,997	12,484	12,552	12,413	11,747
〃 (言語訓練)	356	399	300	228	257
A 型講座利用者数	402	262	293	357	338
手話通訳件数	7,065	6,773	6,516	2,737	3,148
サポーター養成研修会参加者数	21	13	19	23	23
地域活動支援センターⅡ型利用者数	4,837	5,477	5,750	5,086	4,768
障害児等療育支援事業					
外来による療育指導件数	2,844	1,752	1,664	1,876	3,869
おやこ広場利用者数	13	49	72	78	67
就学児相談会相談件数	14	26	19	14	11
母親カウンセリング利用者数	12	7	※H28 から相談支援員の電話相談に変更		
訪問による療育指導数	133	107	62	62	87
施設職員等に対する療育技術指導数	267	389	354	369	354
相談支援事業					
相談支援延人数	6,597	7,343	6,657	6,756	8,065
難聴者・中途失聴者手話講座参加者数	415	365	347	339	437
聴覚障害者生活支援延人数	338	364	371	326	336
視覚・聴覚重複障害者生活支援延人数	182	161	155	168	161
ハートセンター巡回相談者数(旧合併地区)	12	23	5	6	※戸別訪問に変更
視覚障害者リハビリテーション指導数	592	520	704	885	1,066
自立訓練(機能訓練)実施回数	1,431	1,435	1,188	1,270	992
就労支援相談(相談、訪問、情報提供)件数	2,893	2,761	2,316	2,298	2,369
児童発達支援センター					
さくらんぼ園(単独通園)延出席児数	5,326	5,407	5,907	6,370	6,256
さくらんぼ園(親子通園)延出席児数	1,604	2,557	2,680	2,336	2,411
診療所					
診療数	6,398	7,583	8,036	8,523	9,241
診療セラピストの訓練数	10,689	10,053	9,466	8,328	9,580
巡回相談件数(発達障害早期発見・支)	289	288	297	391	397
ペアレントトレーニング延受講者数	99	110	110	111	113
障害者雇用開拓による雇用啓発件数	263	231	※H27 で事業終了		
合計(参考)	153,484	157,468	156,119	151,452	153,326